

日本発ドイツ便り : Rolltreppe

今回は「関西人あるある」から始まります。

出張や旅行で東京に行ったとき、空港や駅のエスカレーターで、いつものように「右側」に立って、東京の人から「はあ。これだから田舎ものは！」みたいな顔されたことないですか？

もしくは大阪でエスカレーターの左側に立っている人見つけたときに「こいつ東京もんか？」って思ったことないですか？

不思議なことにエスカレーターのルールって大阪と東京と違います。なぜでしょうね？

東京の人は多分「こっちのルールが世界標準」って思っているかもしれませんが、残念ながら大阪ルールが国際ルールです。

他の国の事情は分かりませんが、少なくとも確認が取れているドイツ・オーストリア・スイス（要はドイツ語圏）は「右=立つ人」「左=歩く人」です。



ドイツ語でエスカレーターは Rolltreppe（ロールトレッペ）もしくは Fahrtreppe（ファールトレッペ）と言います。どちらも意味は同じです。

エスカレーターの機能には何も違いはありませんが、足長族向けに階段一段の高さが気持ち高いと思います。背も高い人が多いからか、手すりの位置も高め。動くスピードも少し早いような気がします。

日本のように「手すりを持って」とか「足元に気をつけろ」とか「子供は手をつないで乗れ」なんていう音声ガイドは聞いたことがないです。

あと、この先危険？というかそれぞれの段の左右端とか奥に白とか黄色で線が入っているのも見かけたことはありません。

ある日のフランクフルト国際空港にて、スーツケースをごろごろ両手に引きながら何気なく歩いていたら、こんな表示を見つけました。通り過ぎてから「あ！」と気が付いたのですが、嬉し

くなって、わざわざ上ったエスカレーターをもう一度降りてきて写真撮ってきました。日々の小ネタ探しに余念がない、ということにしておいてください。でも、傍から見たら、結構不思議な人ですよ～。☺



表示部分アップです。ドイツ語圏の統一ルールは Rechts stehen (レヒツ・シュテーエン: 立つ人は右側)、Links gehen (リンクス・ゲーエン: 歩く人は左側)。足型まで書いてあって分かりやすいですね。



写真提供はK.Tさん。Danke schön!

こちらはウィーンの地下鉄駅の Fahrtreppe。やっぱり Bitte rechts stehen! (右側に立ってください!) って書いてありますね。

ところで、下の青い部分、Fahrtreppenbenutzungshinweise って恐ろしく長い単語が書いてありますが、これはドイツ語の面白い特徴の一つで、どんどんくっつけて(もちろんくっつけ方のルールはありますが)、いくらでも1単語を長くすることができるんですね。この場合、Fahrtreppe+Benutzung+Hinweise と3つの単語が合体しています(なので Fahrtreppenbenutzungshinweise で探しても辞書には載っていません)。

この長い言葉が何を言わんとしているかという「エスカレーター使用時の注意事項」☺
読み方は、**フ**ァールトレッペン・**ベ**ヌツツングス・**ヒ**ンヴァイゼ。ドイツ語って面白いでしょう？

ちなみにイタリアのエスカレーター（こちらはScala mobile：スカーラ モービレ と呼ぶそうな。動く階段の意味ですね）の状況は？と聞いてみたら、そんなルールはないようで、皆さん好き勝手に右に立ったり左に立ったり真ん中に立ったり。

急ぐ人はpermesso, permesso!（ペルメツソ、ペルメツソ！：すみません。すみません～。って感じ）と言いながら人をかき分け急ぐ。が標準的だそうです。（あはは、いちいち賑やかなところがイタリアらしい？）でもミラノとかローマとか都会部分では最近ドイツ語圏と同じルールが徐々に浸透してきているとか。

そんなこんなで、大阪とドイツではエスカレーターは「右=立つ人」「左=歩く人」をお願いします。☺